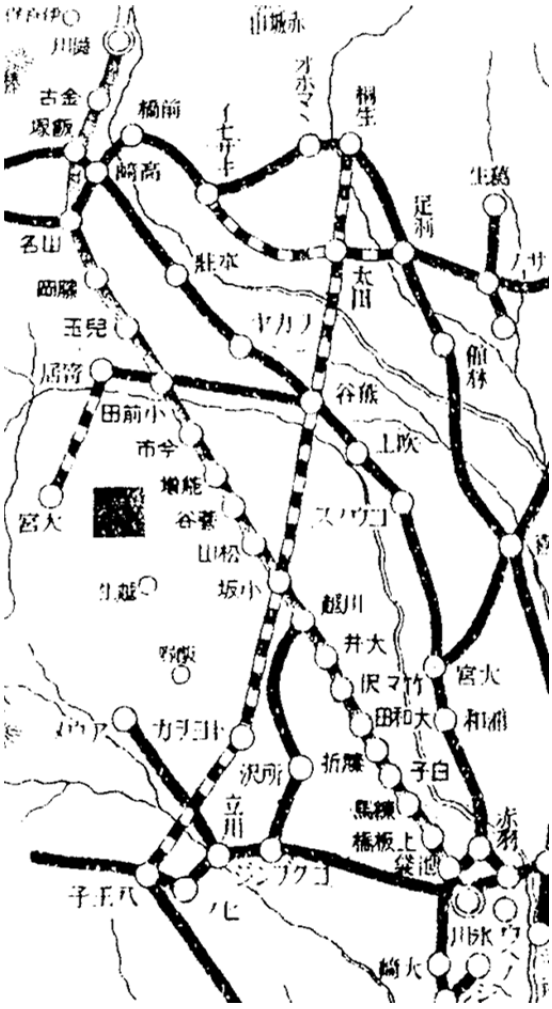
おがわ学通信　No.1

令和元年６月６日

この資料は、1903（明治 36）年 12 月 23 日付「東上鉄道株式会社仮免許申請書」に添付された「東上鉄道敷設計画図」（部分）です。我が小川町を■で示しています。この資料から、どんな学習課題を設定できるでしょうか。

ここでは、次の２点を学習課題としたいと思います。「現在の東武東上線の経路となぜ違うのか。」「東上鉄道はどんな目的で設立されたのか。」本号では、時代背景を捉えるため、２つ目の課題に取り組みましょう。



＜学習課題１＞
東上鉄道はどんな目的で設立されたのか。

気になるのは、1903 年という時期です。どんな時代背景のもとで、何を目的に東上鉄道が計画されたのか。これがこの学習課題です。

時代背景として、次の２点を確認しましょう。①1884（明治 17）年には、上野と高崎を結ぶ日本鉄道（現在の高崎線）が開通。1893（明治 26）には、上野と直江津を結ぶ路線が開通（碓氷峠、長野を経由した迂回ルートで太平洋側と日本海側がつながる）。②1901（明治 34）年、ロシアのシベリア鉄道が開通。

これをふまえ、考察する資料は「東上鉄道株式会社設立趣意書」です。一部を抜粋します。

「抑モ東上鉄道線路ハ･･･川越町ニ至リ･･･松山ヲ経テ花園村・・・児玉藤岡ヲ経テ渋川ニ至ルヲ第一期ノ計画トシ・・・第二期ニ於テハ沼田ヲ経テ長岡ニ通ジ・・・武上越三州ノ中部ヲ串通シ百六十六哩十鎖ノ路程ヲ以テ東京ト長岡ヲ連絡スル・・。」

①を背景に、東上鉄道は、第一期と第二期の工事を通じて、直江津を経由せず、三国峠を越えて直接、太平洋側と日本海側を結ぶことが、その目的であると述べています。

「且ツ夫レ西比利亜鉄道ノ竣工ニ伴ヒ東洋ノ局面ハ益々多事ニシテ、特ニ日本海ニ瀕スル北越ノ地ハ、運輸交通国防軍備共ニ至大ノ影響ヲ受クル・・・若シ不幸ニシテ戦ヲ外国ト開キ敵艦ノ来テ北海ヲ窺フアルカ如キ運ニ遭遇セバ・・・東京長岡ノ間緩急呼応ノ利便ヲ与フルモノ、東上鉄道ノ右ニ出ヅルモノアラザルベキ・・・。」

②を背景に、外国との有事を想定して東上鉄道の軍事上の必要性を述べています。

私たちが普段利用している身近な鉄道を通じて、日本の近代という時代がどんな時代だったかを考える視点を提供してくれる資料です。

＜参考文献＞『小川町の歴史』